「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（小川会）

日時：令和８年１０月８日（木）１８時４５分～１９時４５分
場所：小川会館

① 市道西口線の道路幅員・拡幅及び歩道環境改善

② 災害時のペットの避難場所について

③ 災害時の食糧・水の確保やトイレ対策について

④ 水道管の老朽化・耐震化について

⑤ 大平林道の湧水の有効活用について

⑥ 亀石峠トンネルについて

⑦ 小川湯の市からの補助について

⑧ 魅力あるまちづくり補助金について

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（小川会）

意　　見

市道西口線の道路幅員・拡幅及び歩道環境改善

市道西口線沿いにあるパン屋「サザンカ」付近の電柱が歩道を著しく狭くしており、歩行者もしくは車椅子やシニアカー利用者は、場合によって車道側にはみ出さなくてはならず、接触事故の危険に晒されます。

また、駅から宿泊施設へ観光客を送迎するマイクロバスやタクシー、観光客の乗用車など多様な車両が頻繁に往来する中で、観光シーズンには交通量と歩行者が増加し、道路の狭さが原因で円滑な通行が妨げられ観光地としてのイメージ低下にも繋がっています。

また、全国の観光地や商店街で発生した火災の教訓からも狭隘道路は災害時の避難や消防活動の大きな妨げになります。

よって、以下の事項を要望いたします。

・パン屋「サザンカ」付近の電柱の移設もしくは地中化による歩行障害の解消
・道路及び歩行者空間の幅員拡幅
・歩道と私有地との段差解消によるバリアフリー化の推進
・車椅子やシニアカーの利用者、ベビーカーを使われる保護者の方が安心して道路を利用できる環境の整備
・市内を巡回できる道路を整備することで渋滞を回避できる市道西口線の整備

伊東市を訪れる観光客が最初に目にする駅前周辺において、安心して通過できる道路を実現することは観光都市としての魅力向上に繋がります。また、整備することで、周辺の主要道路とのアクセス性が向上し、市内の活性化にも繋がりますので是非お願いします。

回　　答

今後、伊東駅前広場整備計画を進めていくにあたっては、駅前広場だけでなく、市道西口線の整備についても併せて検討していく必要があると考えております。

道路の拡幅や電柱の移設など、実施にあたっては沿道の土地利用や関係機関との調整など、様々な課題がありますので、まずは安全対策や歩行環境の改善についての検討を進めるとともに、駅前広場の整備と併せて、市道西口線のより良い整備のあり方について検討してまいりたいと考えております。

（ご意見いただいている市道は市道伊東駅伊東港線になります。）

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（小川会）

意　　見
災害時のペットの避難場所について 災害時にペットと避難できる避難所について、伊東市の状況を教えてください。
回　　答
現在、伊東市では、風水害時に、ペットと一緒に避難できる避難所として、竹の台幼稚園を指定しております。 また、各学校の体育館を避難所として開設する場合には、ペットのためのスペースを設けることとしておりますが、衛生面やアレルギーへの配慮などから、現在は、飼い主とペットは別々の場所で過ごしていただくこととしております。 さらに、伊東市では、ペットと宿泊できる市内のホテルと協定を締結しており、災害の規模や避難生活の長期化などの状況に応じて、こうした施設の活用も検討しております。 一方で、大規模な災害が発生した際に、ペットと一緒に避難できる場所や環境が十分とはいえないことも課題として認識しております。 このため、今年３月に、ペットと飼い主が同じ空間で避難生活を送る場合に、どのような課題が生じるのかを検証する取組を行いました。 今後は、この検証を通じて、衛生面や安全面、周囲の避難者への配慮など、さまざまな課題を整理するとともに、ペットと一緒に避難できる避難場所の確保に向けて、引き続き検討を進めてまいります。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（小川会）

意　　見
災害時の食糧や水の確保やトイレ対策について 先日、伊東市が土屋米穀店と災害時の協定を締結したことを新聞で拝見しました。また、プレジャーリゾート伊豆赤沢温泉では、海洋深層水を飲料水にする事業が行われており、災害時の水の提供についても検討が進められていると伺いました。 災害が発生した際には、食料や飲料水の確保はもちろんですが、避難生活においてトイレの問題も非常に深刻になると聞いています。トイレが十分に使えない状況が続けば、衛生面や健康面への影響も心配されます。 そこで、伊東市では、災害時に必要となる食料や飲料水をどのように確保する計画になっているのか、また、トイレについては、避難所などでどのような対策を進めているのかを教えてください。
回　　答
本市では、避難訓練の際にマンホールトイレの設置訓練を実施するなど、災害時にトイレを確保するための取組を実施しております。 一方で、大規模な災害が発生した場合には、トイレの数が十分に確保できない可能性があるほか、使用に伴う衛生面や臭いなどの問題も考えられます。 そのため、避難所での対応に加え、市民の皆様にも、各ご家庭でトイレ袋などを備蓄していただき、できる限りご家庭で対応できるように日頃から備えていただくことが重要であると考えております。 また、熊本地震などの災害時には、トイレカーを派遣する自治体の取組も見られました。こうした事例も参考にしながら、本市においても、災害時にトイレ環境を確保するための選択肢の一つとして、トイレカーの導入について検討してまいります。 食料につきましては、災害時に必要な物資を確保できるよう、さまざまな事業

者と協定を締結し、調達体制の充実を図っております。最近では、土屋米穀店様とも災害時の協定を締結し、災害時における食料確保に向けた連携を進めております。

　飲料水につきましては、災害時の水の確保に向け、プレジャーリゾート伊豆赤沢温泉様と、海洋深層水を活用した飲料水の提供など、災害時の協力体制について、協議を進めているところです。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（小川会）

意　　見
水道管の老朽化・耐震化について 近年、地震などの災害によって水源から配水池までの水道管が損傷し、広範囲かつ長期化する断水の事例が各地で報道されています。 伊東市においても、小川地区周辺の水源地に関わる水道管や、市内の主要な送水管・配水管について、耐震性や老朽化について懸念しておりますので、ぜひ早急に対策していただきたいと思います。
回　　答
伊東市においても水道管の老朽化・耐震化は大きな課題となっています。 一方、水道事業及び下水道事業は、国の方針において、利用者の皆様からいただく料金収入を財源として、施設の維持管理や更新など必要な経費に使っていくという、持続可能な事業運営を行っていくことが求められております。 そのため、今後は、水道管の老朽化対策や耐震化を含めた計画的な更新を進めるとともに、将来にわたり安定したサービスを提供していくため、利用料金の改定についても視野に入れながら検討していく必要があると考えております。 今後も、市民の皆様にご理解、ご納得いただけるよう、事業の現状や課題、今後の見通しなどについて積極的に情報を公開し、透明性を確保しながら、持続可能な事業運営と安全・安心な水道の確保に努めてまいります。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（小川会）

意　　見
大平林道の湧水の有効活用について 大平林道の途中に湧水があり、水が溜まる場所は、一定量を超えると水が溢れ出るようになっています。 以前は、人が飲み水として利用できる位置に水が溢れ出るようになっていたのですが、現在は水が下へ流れるように排水路のようなものが設けられています。 せっかくの貴重な湧水ですので、現状を調査したうえで、少し手を加えることにより、災害時などに生活用水として活用できるよう整備してはどうでしょうか。
回　　答
大平林道の湧水の有効活用について、ご提案ありがとうございます。 現地の状況を確認するとともに、災害時の生活用水としての活用など、どのような活用が可能か検討してまいります。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（小川会）

意　　見
亀石峠トンネルについて 伊東市は、地震や大雨、土砂災害などによって道路が寸断された場合、いわゆる「陸の孤島」となってしまうことが懸念されます。 特に、大規模災害が発生した際には、救急搬送や救援物資の輸送、避難などにおいて、道路の通行ルートを確保することが市民の命を守るうえで非常に重要になります。 亀石峠トンネルが整備されれば、災害時に通行可能な道路を確保することができ、伊東市の防災力を高めるうえで、大きな意義があると考えます。また、平常時においても、地域間の移動や物流の利便性向上につながることが期待されます。 ぜひ、市長から静岡県に対して、亀石峠トンネルの必要性を強く訴えていただき、整備の実現に向けて積極的に取り組んでいただくよう、お願いいたします。
回　　答
亀石峠トンネルの整備につきましては、これまでも伊東市から静岡県に対し、整備の実現に向けた要望を行っております。 今年度の県予算には初期調査に係る費用が計上されており、先日の県議会において、来年度には複数のルート案が示される旨の答弁があったと承知しております。 こうした動きは、今後の整備に向けた一歩であると受け止めております。引き続き、県の動向を注視しながら、亀石峠トンネルの必要性を県に訴え、整備の実現に向けて取り組んでまいります。 また、事業の実現に向けては、市からの要望に加え、市民の皆様からの熱意ある声も大きな力になると考えております。今後とも、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（小川会）

意　　見
小川湯の市からの補助について 小川湯は、小川温泉施設利用協同組合が運営しており、組合員の出資金や施設の利用料、さらにはボランティアの皆様のご協力によって、何とか運営を継続している状況です。 現在の運営体制では、今後も継続していくことに不安があり、組合や利用者、ボランティアの方々の努力だけでは、運営を維持していくことが難しくなることも懸念されます。 そこで、小川湯が今後も地域に必要な温泉施設として存続できるよう、運営費の一部について、市からの補助や支援をしていただけないか、ご検討をお願いいたします。
回　　答
市としましては、観光振興という観点であれば、市から補助ができる可能性がありますが、小川湯が地域住民の日常生活に根付いた公衆浴場であり、観光客の誘致を目的としていないことを踏まえると、難しい状況です。 また、現在、他の財産区が運営する公衆浴場についても、財政的な課題から、今後、市への移管を検討している事例があります。このため、市が施設を引き継ぐ場合の課題や必要な対応について、関係者との協議を進めているところです。 こうした事例も参考にしながら、小川湯の運営状況や組合の意向を十分に確認するとともに、地域に必要な公衆浴場としての役割や、運営主体である小川温泉施設利用協同組合の現状を踏まえ、どのような対応が可能であるか、検討してまいります。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
（小川会）

意　　見
魅力あるまちづくり補助金について 地域の祭りを開催するにあたり、この補助金を活用しようと申請を考えましたが、私たちの区では補助金の上限額に達していたため、申請することができませんでした。 一方で、区によっては予算が余っている場合もあるのではないかと思います。もちろん、市全体の予算には限りがあり、各区への配分にも様々な事情があることは承知していますが、地域によって補助金の需要には違いがあると考えます。 そこで、各区に割り当てられた予算を基本としながらも、予算が不足している区と余っている区がある場合には、余剰分を他の区で活用できるような柔軟な仕組みを検討していただけないでしょうか。ぜひ、地域の実情に応じて補助金を柔軟に活用できる制度について、ご検討をお願いいたします。
回　　答
伊東市では、15 の行政区に対して一律に 50 万円をあらかじめ配分しているわけではなく、各地区からの申請に基づき、要件を満たした事業に対して補助金を交付する仕組みとなっております。そのため、各地区に割り当てられた予算が余るという考え方ではございません。 一方で、市ではさまざまな事業を対象とした補助制度を設けております。ご相談いただいた事業についても、事業内容が他の補助制度の対象となる場合には、活用できる可能性がございます。 地域のお祭りなどの事業を実施するにあたり、補助金の活用についてご不明な点がございましたら、事前にご相談いただければと思います。